

第8次徳島県保健医療計画 (案)

令和6年4月
徳島県

徳島県保健医療計画 目次

第1章	基本的事項	
第1	計画策定の趣旨	3
第2	計画の基本理念	3
第3	計画の性格	4
第4	計画の期間	4
第2章	本県の医療を取り巻く環境	
第1	人口の動向	7
第2	疾病の動向	14
第3	保健医療施設の状況	21
第3章	保健医療圏の設定	
第1	保健医療圏の趣旨	31
第2	保健医療圏の設定	31
第3	基準病床数	38
第4章	徳島県地域医療構想	
第1	地域医療構想の基本的事項	43
第2	構想区域の設定	44
第3	医療機能別の必要病床数推計	45
第4	必要病床数と病床機能報告による病床数の比較	49
第5	将来のあるべき医療提供体制を実現するための施策	51
第6	地域医療構想の実現に向けて	58
第7	構想の推進体制・進行管理	60
第5章	本県の保健医療提供体制	
第1	医療機関の機能分化と連携	67
1	地域包括ケアシステムの深化・推進	67
2	地域の医療機関の機能分化と連携	68
3	地域医療支援病院の整備目標	70
4	公的病院等の役割	72
5	社会医療法人の役割	74
6	徳島医療コンソーシアムによる取組	75
7	広域医療連携の取組	78

第2	疾病に対応した医療提供体制の整備	
1	がんの医療体制	81
2	脳卒中の医療体制	111
3	心筋梗塞等の心血管疾患の医療体制	131
4	糖尿病の医療体制	153
5	精神疾患の医療体制	169
第3	課題に対応した医療提供体制の整備	
1	救急医療体制の整備	193
2	小児医療体制の整備	215
3	周産期医療体制の整備	235
4	災害医療体制の整備	251
5	新興感染症発生・まん延時における医療体制の整備	271
6	へき地医療体制の整備	291
7	在宅医療体制の整備	313
第4	安全な医療の提供	335
第5	保健医療施策の推進	338
1	健康危機管理対策	338
2	健康増進（健康徳島21の推進）	340
3	自殺予防対策	345
4	母子保健対策	349
5	高齢者保健医療福祉対策	354
6	障がい者（児）保健医療福祉対策	358
7	結核・感染症対策（新興感染症発生・まん延に係るものを除く）	365
8	難病対策	369
9	臓器移植対策	375
10	アレルギー疾患対策	379
11	歯科保健医療対策	382
12	血液の確保・適正使用対策	385
13	医薬品等の適正使用対策	387
14	快適な環境衛生の確保	390
15	食品等の安全確保	392
16	安全な水の確保	395
17	動物由来感染症の予防	397
18	医療に関する情報化（医療DX）の推進	398
第6	保健・医療・介護（福祉）の総合的な取組	401

第6章	保健医療従事者の状況及び養成・確保と資質の向上	
第1	医師の養成・確保（徳島県医師確保計画）	405
第2	歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の養成・確保	463
第3	薬剤師の養成・確保（徳島県薬剤師確保計画）	465
第4	看護職員の養成・確保	471
第5	保健医療従事者の養成・確保	479
第6	医療従事者の勤務環境の改善	483
第7章	外来医療に係る医療提供体制の確保（徳島県外来医療計画）	485
第8章	事業の評価及び見直し	529

第1章 基本的事項

第1 計画策定の趣旨

徳島県は、温暖な気候と緑あふれる豊かな自然を有し、県民が快適な生活を営むために必要な自然的条件に恵まれています。

また加えて、医療技術の進歩、保健衛生活動の積極的な推進、さらには生活水準の向上等により、県民の健康水準は着実に向上しています。

しかし一方で、人口の急速な高齢化や社会構造の多様化・複雑化が進む中で、疾病の構造が変化し、がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病等の生活習慣病や精神疾患が増加しています。また、近い将来その発生が危惧される「南海トラフ巨大地震」をはじめとする大規模自然災害への対応や地域における医療提供体制の確保において重要な課題となる救急医療、へき地の医療、周産期医療及び小児医療への対応、新興感染症発生・まん延時における医療、さらには、人口の急速な高齢化に伴う医療需要の増加が見込まれる中、地域における病床の機能の分化及び連携並びに在宅医療を推進し、将来の医療需要に対応した適切な医療提供体制の早急な構築を図ることが重要となっています。

県では、医療法に基づき、医療資源の適正な配置を図り、健康増進から疾病の予防、診断、治療及びリハビリテーションに至る総合的な保健医療提供体制の確立を目指し、昭和62年11月に「徳島県地域医療計画」を策定し、その後、見直しを行ってまいりましたが、平成30年4月に公示した「第7次徳島県保健医療計画」の策定から6年が経過する中、本県の今後の保健医療提供体制のあり方をあらためて検討し、県民のニーズに的確に対応した更に良質かつ適切な保健医療を提供できる体制の構築を推進するため、「徳島県保健医療計画」を見直すこととしました。

第2 計画の基本理念

「県民一人ひとりの状態に適応した保健・医療・介護サービスが提供され、行き場のない患者を生み出さず、全ての県民が安心して暮らせる徳島づくり」

時代が移り、生活様式や価値観が変化する中であっても、いつの世も、だれもが願って止まないものは健康です。

近年の急速な高齢化の進展の中で、疾病構造の変化や地域医療の確保並びに医療及び介護を取り巻く地域ごとの多様な状況に適切に対応するためには、限りある地域の社会資源を効率的かつ効果的に活用し、地域包括ケアシステムの構築を進めていくことが必要となっています。

そこで、引き続き、本県の基本理念を「県民一人ひとりの状態に適応した保健・医療・介護サービスが提供され、行き場のない患者を生み出さず、全ての県民が安心して暮らせる徳島づくり」とし、この基本理念に基づき、本県の医療提供体制に対する県民の安心、信頼の確保に向けて、医療機能の分化・連携を推進し、地域において切れ目のない医療の提供を実現することにより、患者本位の、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を図ります。

そして、県民一人ひとりの健康に対する関心をさらに高め、「自らの健康は自らが守る」という自助努力の考え方を基本としつつ、県民の理解と協力の下、県、市町村をはじめ保健、医療、福祉に関する機関、団体等が一体となって、目標達成に向けて努力を積み重ねていきます。

第3 計画の性格

この計画は、次に掲げる性格を有するものとします。

- (1) 医療法第30条の4第1項の規定に基づく医療提供体制を確保するための計画（医療計画）
- (2) 徳島県における保健医療に関する基本的な指針
- (3) 「徳島県総合計画」の保健医療に関する分野別計画
- (4) 県民その他関係機関・団体にとっては、自主的かつ積極的な取組が展開されることを期待するものであり、市町村にとっては、計画策定や施策の指針となるもの

第4 計画の期間

令和6年（2024年）4月1日から令和12年（2030年）3月31日までの6年間とします。

第2章 本県の医療を取り巻く環境

第1 人口の動向

1 人口

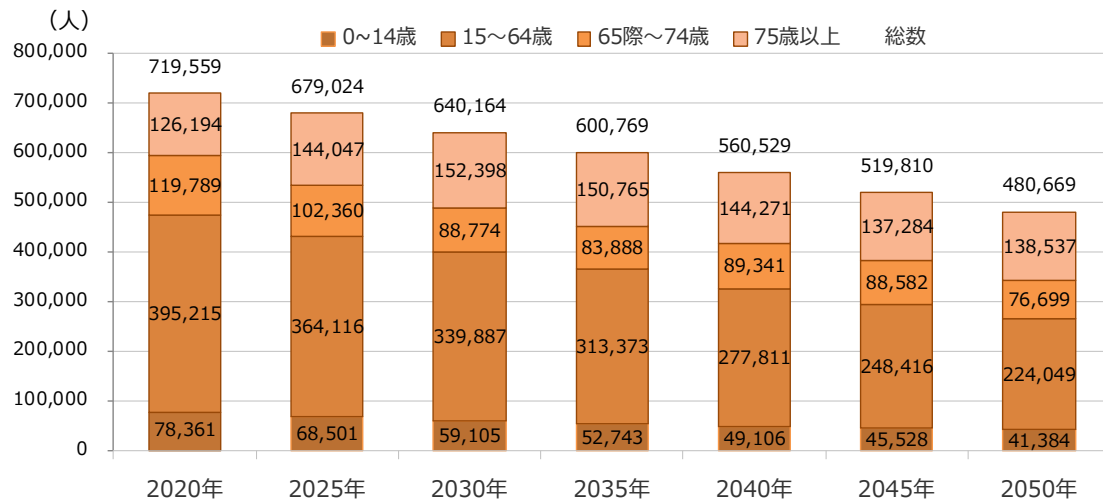
本県の総人口は、昭和62年頃（約83.6万人）から減少傾向が現れ、令和5年4月1日推計人口では697,733人と、70万人を下回りました。

今後の総人口の見通しについては、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計（令和5（2023）年推計）によれば、総人口は引き続き減少基調で推移し、2030年には約64万人、2040年には約60万人、2050年には約48万人まで減少すると推計されています。

また、年齢区分別にみると、0～14歳、15～64歳は以降一貫して減少する見込みですが、75歳以上は2030年頃まで増加する見通しとなっています。

特に、生産年齢人口である15～64歳は、2030年には2020年の約86%、2040年には約70%、2045年には約57%にまで減少する見通しです。

●徳島県の人口推計

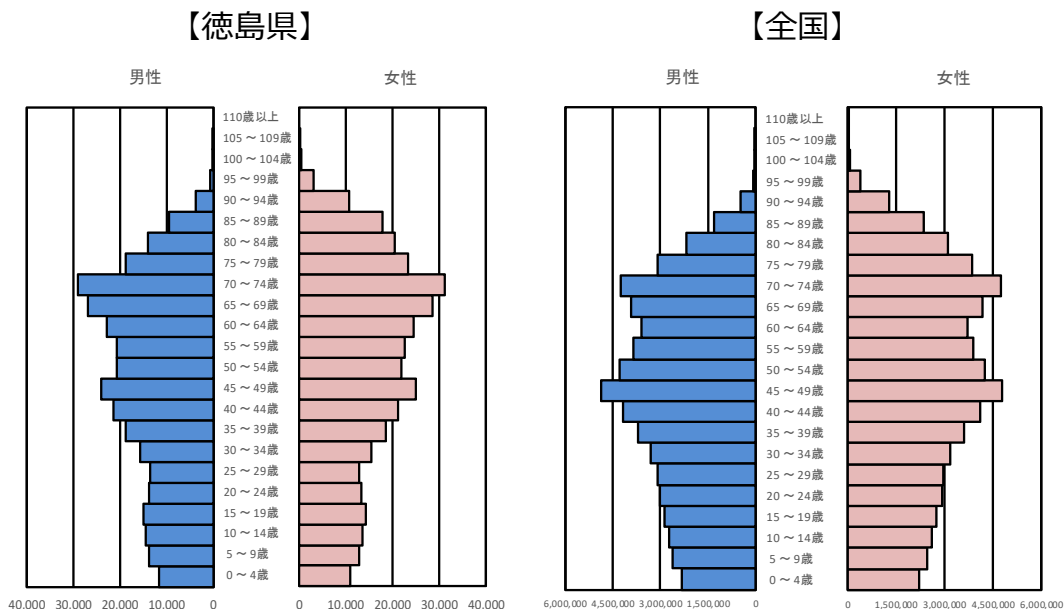


	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
75歳以上	126,194	144,047	152,398	150,765	144,271	137,284	138,537
65歳～74歳	119,789	102,360	88,774	83,888	89,341	88,582	76,699
15～64歳	395,215	364,116	339,887	313,373	277,811	248,416	224,049
0～14歳	78,361	68,501	59,105	52,743	49,106	45,528	41,384

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（令和5（2023）年推計）

人口構成を全国と比較してみると、65歳以上の高齢者、特に75歳以上の後期高齢者が多くっており、15歳未満が少なく、全国よりも少子高齢化が進行している状況です。

●人口ピラミッド

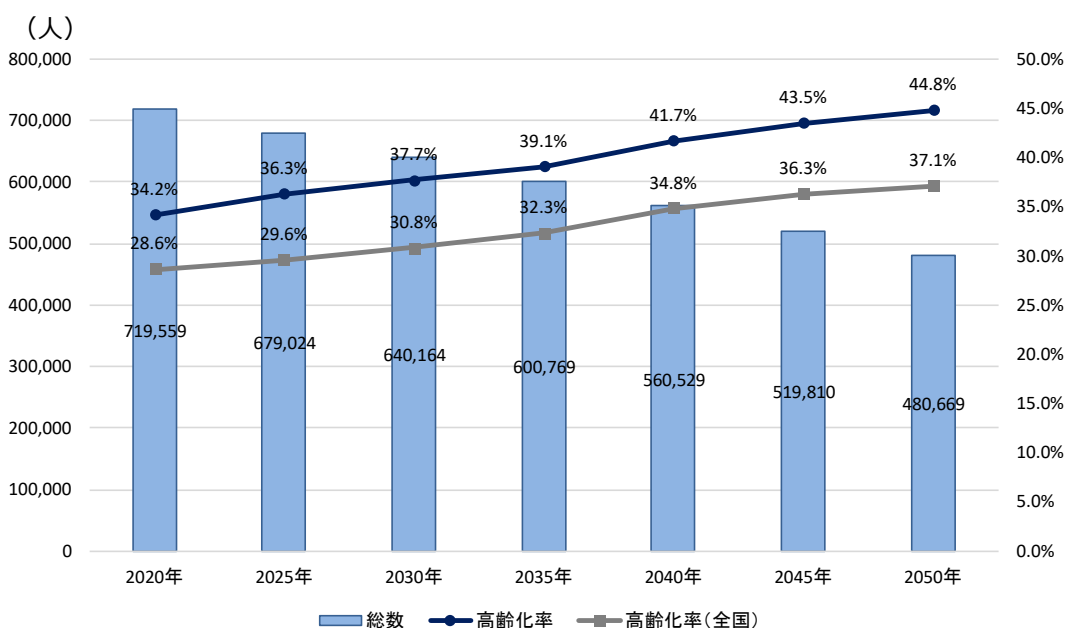


資料：総務省「令和2年国勢調査」

2 高齢化率

本県の高齢化率（総人口に対する65歳以上人口の占める割合）は、全国平均を上回っており、早いペースで高齢化が進行しています。また、今後も高齢化率は上昇を続け、2040年には4割を超える見通しとなっています。

●徳島県の高齢化率の推移



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
65～74歳	119,789	102,360	88,774	83,888	89,341	88,582	76,699
75歳以上	126,194	144,047	152,398	150,765	144,271	137,284	138,537
総人口	719,559	679,024	640,164	600,769	560,529	519,810	480,669
高齢化率(県)	34.2%	36.3%	37.7%	39.1%	41.7%	43.5%	44.8%
高齢化率(全国)	28.6%	29.6%	30.8%	32.3%	34.8%	36.3%	37.1%

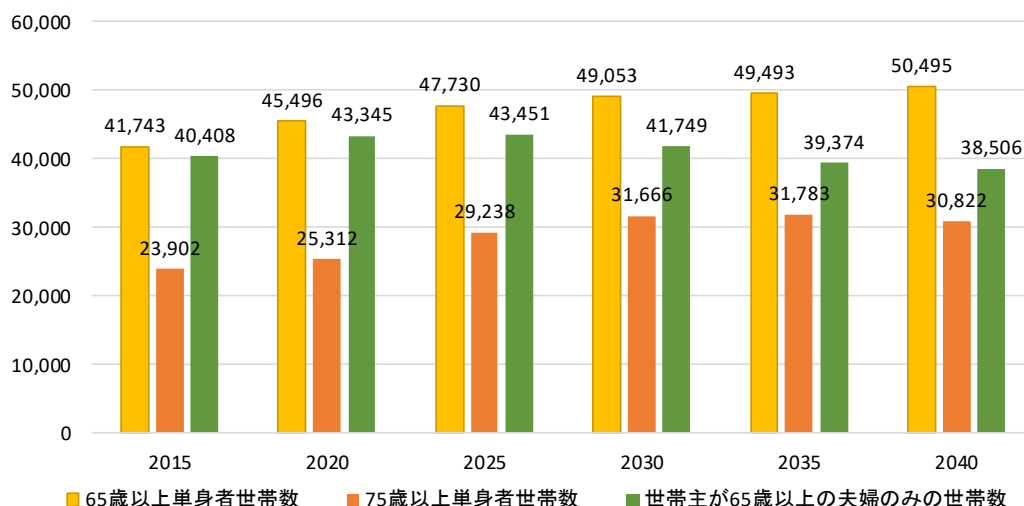
資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（令和5（2023）年推計）

3 世帯構成

本県の65歳以上の高齢者単身者世帯数は、2040年頃まで増加すると見込まれます。また、世帯主が65歳以上の夫婦のみの世帯については、2025年頃まで増加する見通しとなっています。

●徳島県の高齢者世帯等

(世帯)



	2015	2020	2025	2030	2035	2040
65歳以上単身者世帯数	41,743	45,496	47,730	49,053	49,493	50,495
75歳以上単身者世帯数	23,902	25,312	29,238	31,666	31,783	30,822
世帯主が65歳以上の夫婦のみの世帯数	40,408	43,345	43,451	41,749	39,374	38,506

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）」（2019年4月推計）

4 人口動態

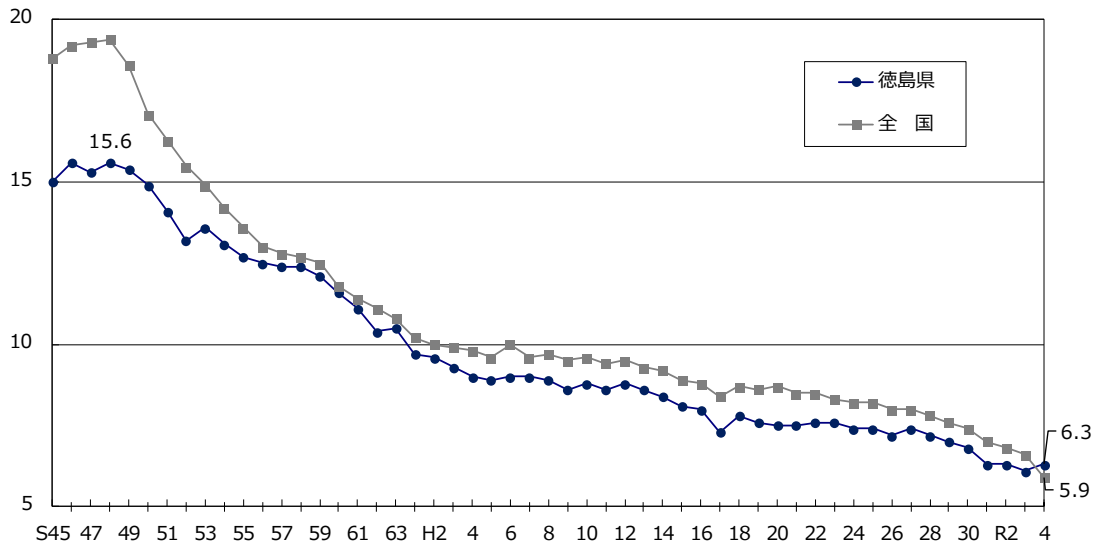
(1)出生率

本県の出生率は、昭和48年の15.6（人口千対）をピークにして、その後下降傾向にあり、令和4年には6.3となっています。

また、全国平均もほぼ同様の傾向にあり、令和4年の全国平均は5.9と戦後最低の値となっています。

このような出生率の低下は我が国全体の問題であり、この背景としては出産適齢女子人口の減少、価値観の多様化、景気の低迷等、様々な要因が考えられます。

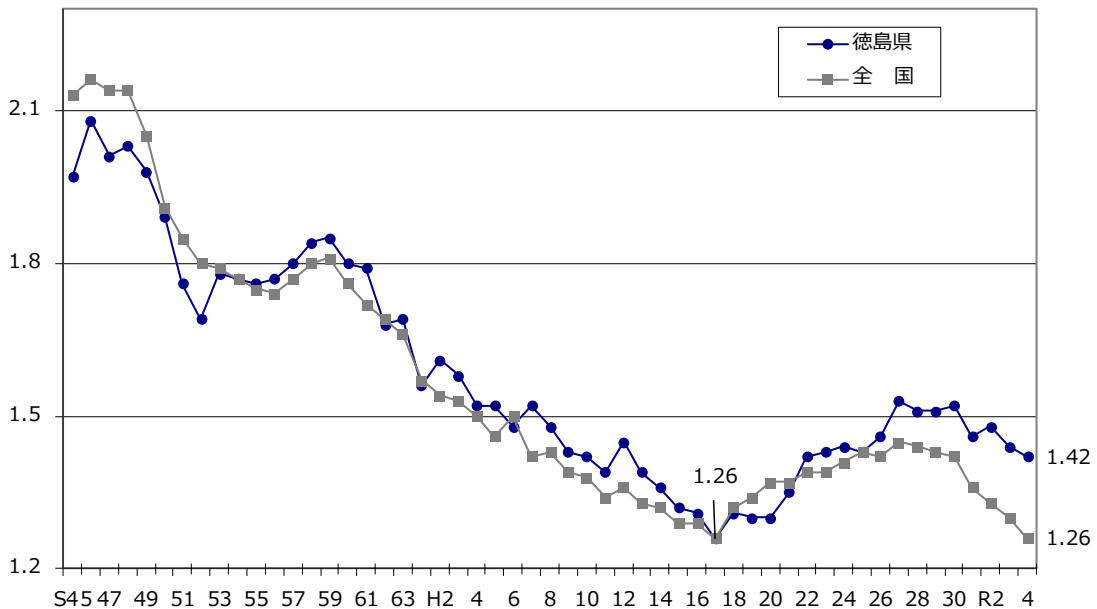
● 出生率の年次推移（人口千対）



資料：厚生労働省「R4人口動態調査」

本県の合計特殊出生率は、昭和40年代をピークに年々低下を続け、平成17年には過去最低の1.26にまで低下しましたが、その後回復傾向にあり、近年では全国平均を上回り、令和4年には1.42となっています。

● 合計特殊出生率の年次推移

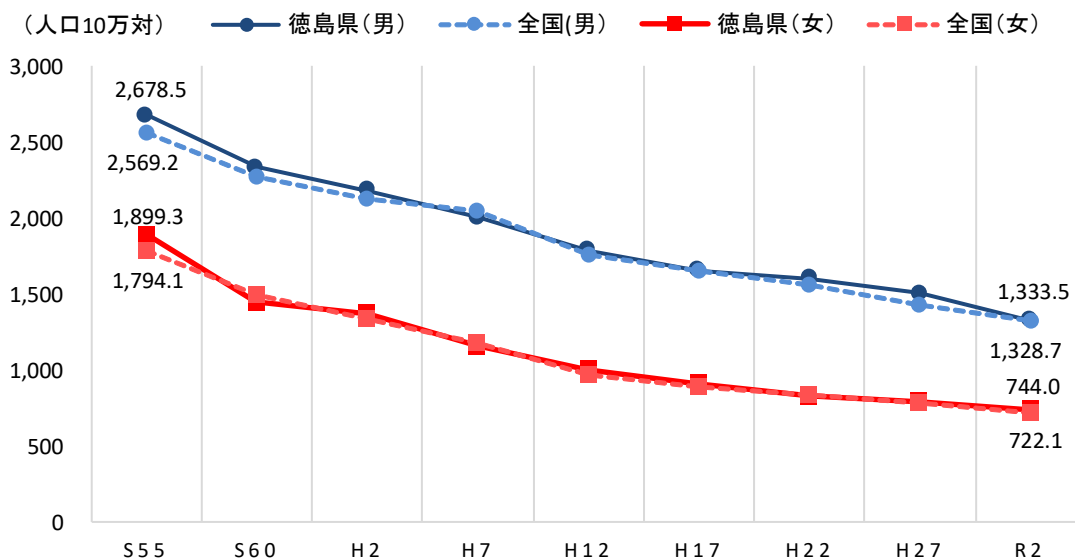


資料：厚生労働省「R4人口動態調査」

(2) 死亡率

本県の全死因による年齢調整死亡率（人口10万対）をみると、全国と同様に低下傾向にあり、男女とも概ね全国平均を上回る水準で推移しており、令和2年においては、男性が全国平均（1,328.7）並みの1,333.5で全国24位、女性が全国平均（722.1）を上回る744.0で全国15位となっています。

● 年齢調整死亡率の年次推移

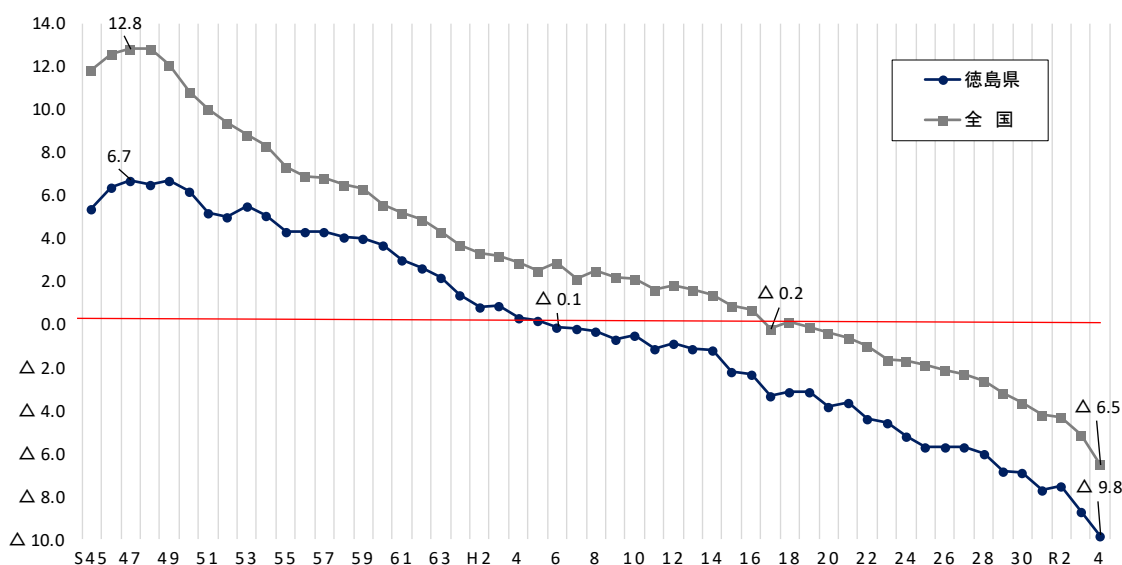


資料：厚生労働省「令和5年度人口動態統計特殊報告令和2年都道府県別年齢調整死亡率」

(3) 自然増加率

出生数から死亡数を引いた自然増加数を人口千対で示した値が自然増加率です。本県の自然増加率は、少子高齢化を背景として全国より低い水準にあり、低下を続けています。平成6年以降はマイナスの値を示す自然減の状態が継続しており、令和4年には $\Delta 9.8$ となっています。

● 自然増加率の年次推移（人口千対）



資料：厚生労働省「R4人口動態調査」

5 健康寿命

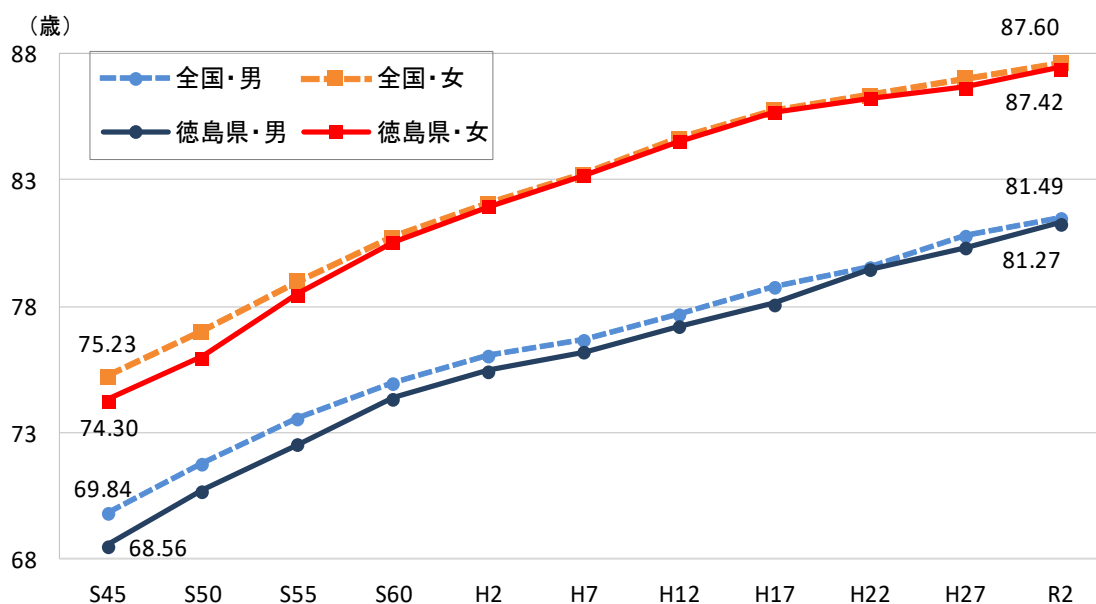
(1)平均寿命

本県の平均寿命は全国と同様に大きな伸びを示し、昭和45年に比べると男性では12.7歳、女性では13.1歳長くなっています。

本県の男性の平均寿命については、昭和45年には、68.6歳で全国36位でしたが、令和2年には81.3歳となり、全国30位となっています。

一方、女性の平均寿命は、昭和45年には74.3歳で全国43位でしたが、令和2年には87.4歳となり、全国33位となっています。

●平均寿命の年次推移



	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
徳島県・男	68.56	70.71	72.54	74.35	75.47	76.21	77.19	78.09	79.44	80.32	81.27
徳島県・女	74.30	76.00	78.48	80.56	81.93	83.17	84.49	85.67	86.21	86.66	87.42
全国・男	69.84	71.79	73.57	74.95	76.04	76.70	77.71	78.79	79.59	80.77	81.49
全国・女	75.23	77.01	79.00	80.75	82.07	83.22	84.62	85.75	86.35	87.01	87.60

資料：厚生労働省「R2都道府県別生命表」

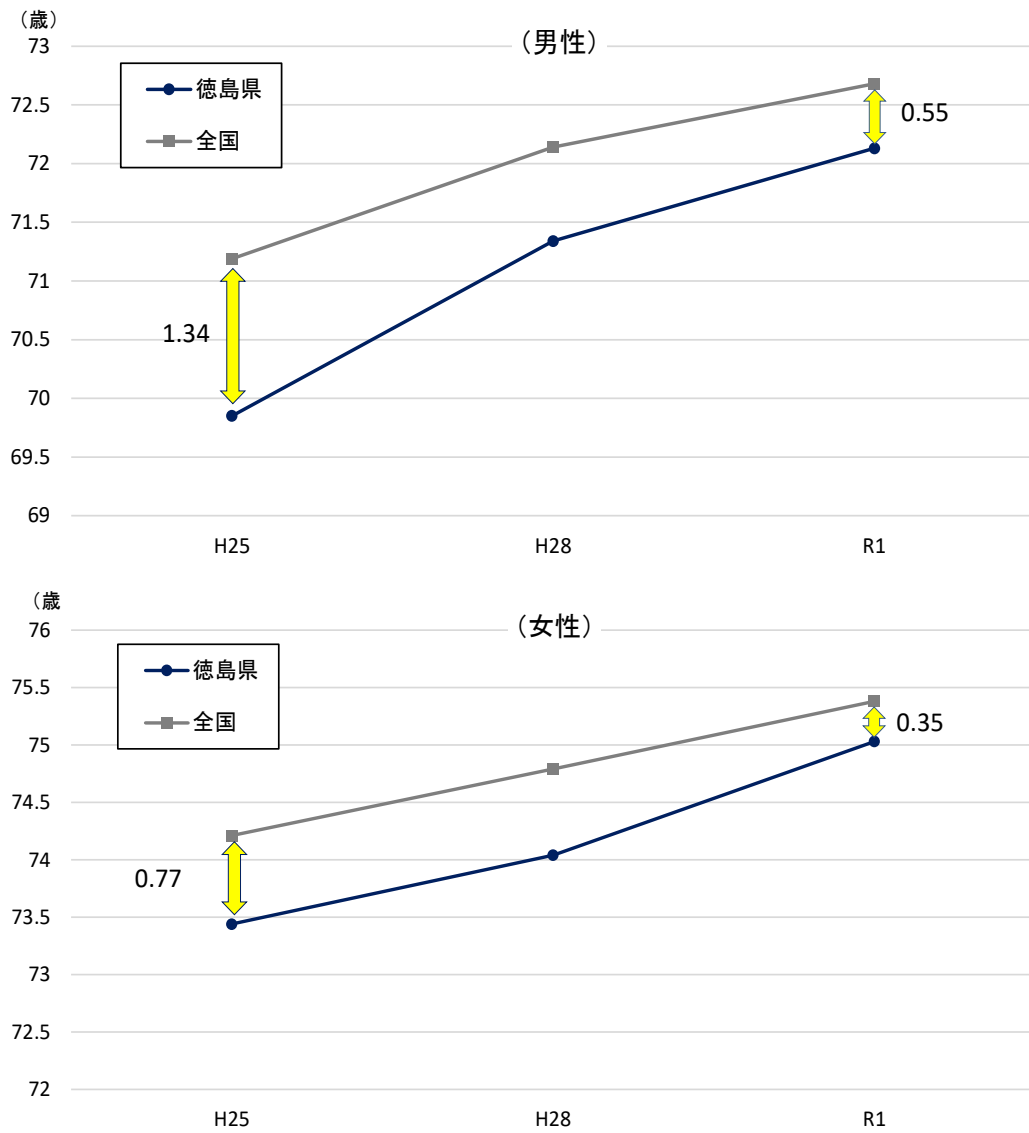
(2)健康寿命

本県の健康寿命（「日常生活に制限のない期間の平均」）は、令和元年の調査において男性72.13歳、女性75.03歳となっており、男性は前回調査の平成28年より0.79年、女性は0.98年延伸しています。

全国的にみると、令和元年調査においては、男女とも全国平均（男性72.68歳、女性75.38歳）より低く、全国順位では男性39位、女性35位と下位にあります。

また、本県と全国平均との差は、男女ともに平成25年以降縮小していません。

●健康寿命の推移



資料：厚生労働科学研究「健康寿命の指標化に関する研究」

第2 疾病の動向

1 死因

死因別に死亡率をみると、全国と同様、悪性新生物で死亡する人が増加傾向にあり、悪性新生物、心疾患、老衰の3大死因で総死亡数の47.5%を占めています。

本県の死因別10万人当たりの死亡率の状況を見ると、10大死因すべてが全国平均より高くなっています。また、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺疾患が高い死亡率となっています。

●10大死因による死亡者数及び人口10万人当たり死亡率

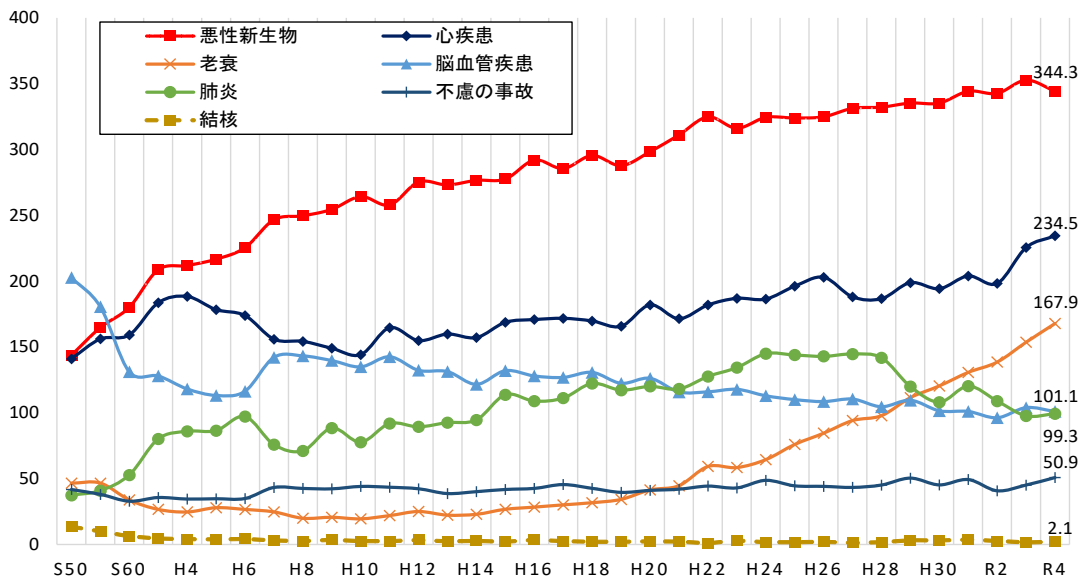
死 因	徳島県				全 国		
	死亡数	占有率	死亡率	全国順位	死亡数	死亡率	死因順位
県順位 総死亡数	10,968	100.0%	1,571.3	9	1,569,050	1,285.8	-
1 悪性新生物<腫瘍>	2,403	21.9%	344.3	18	385,797	316.1	1
2 心疾患(高血圧性を除く)	1,637	14.9%	234.5	10	232,964	190.9	2
3 老 衰	1,172	10.7%	167.9	21	179,529	147.1	3
4 脳血管疾患	706	6.4%	101.1	23	107,481	88.1	4
5 肺 炎	693	6.3%	99.3	3	74,013	60.7	5
6 誤嚥性肺炎	499	4.5%	71.5	2	56,069	45.9	6
7 不慮の事故	355	3.2%	50.9	6	43,420	35.6	7
8 腎 不 全	252	2.3%	36.1	8	30,739	25.2	8
9 間質性肺炎	182	1.7%	26.1	1	22,905	18.8	11
10 血管性及び詳細不明の認知症	162	1.5%	23.2	18	24,360	20.0	10

資料：厚生労働省「R4人口動態調査」

死因は、昭和58年以降、1位悪性新生物、2位心疾患、3位脳血管疾患という順位が定着していましたが、平成30年以降は老衰が3位となっています。

●主要死因の死亡率の年次推移（人口10万対）

(人口10万対)



資料：厚生労働省「R4人口動態調査」

2 受療状況

令和2年患者調査によると、全国の医療施設で受療した推計患者数は、「入院」1,211.3千人、「外来」7,137.4千人です。施設の種別別では、「入院」については「病院」1,177.7千人、「一般診療所」33.6千人、「外来」は「病院」1,472.5千人、「一般診療所」4,332.8千人、「歯科診療所」1,332.1千人となっています。

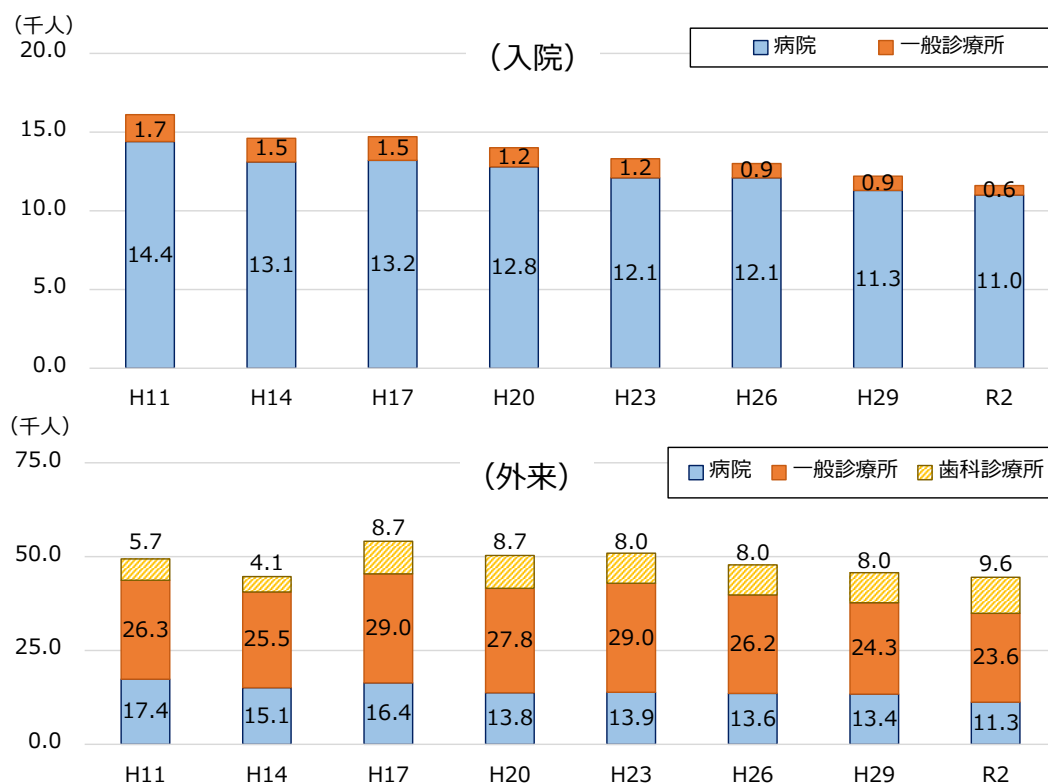
徳島県内の1日当たり推計患者数は入院患者が11.6千人、外来患者が44.5千人となっています。施設の種別別に構成割合をみると、入院患者の94.8%が病院で受療している一方、外来患者については53.0%が診療所で受療しています。

●徳島県の1日当たり推計患者数、構成割合、受療率（施設の種別別）

区分	推計患者数(千人)		構成割合		受療率(人口10万対)	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来
総数	11.6	44.5	100%	100%	1,595	6,098
病院	11	11.3	94.8%	25.4%	1,513	1,563
一般診療所	0.6	23.6	5.2%	53.0%	82	3,237
歯科診療所	—	9.6	—	21.6%	—	1,298

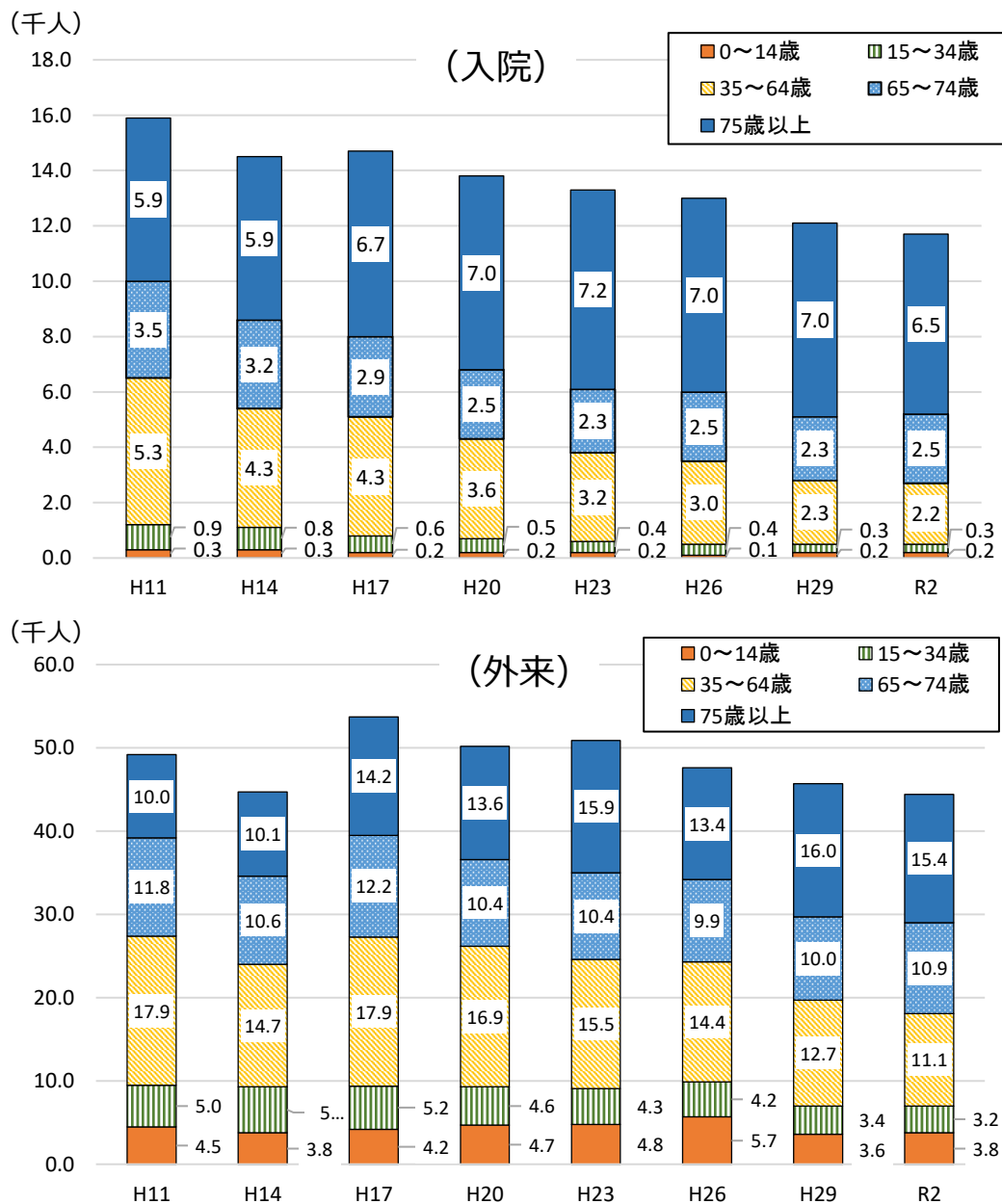
資料：厚生労働省「R2年患者調査」

●施設の種別別にみた1日当たり推計患者数の年次推移（入院・外来）



資料：厚生労働省「R2患者調査」

●年齢階級別にみた1日当たり推計患者数の年次推移（入院・外来）

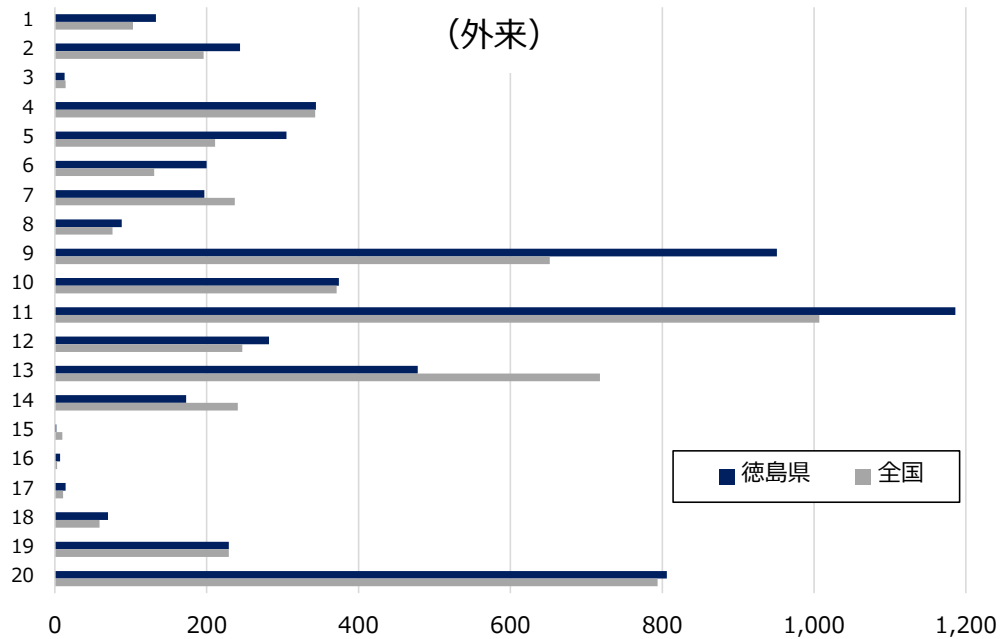
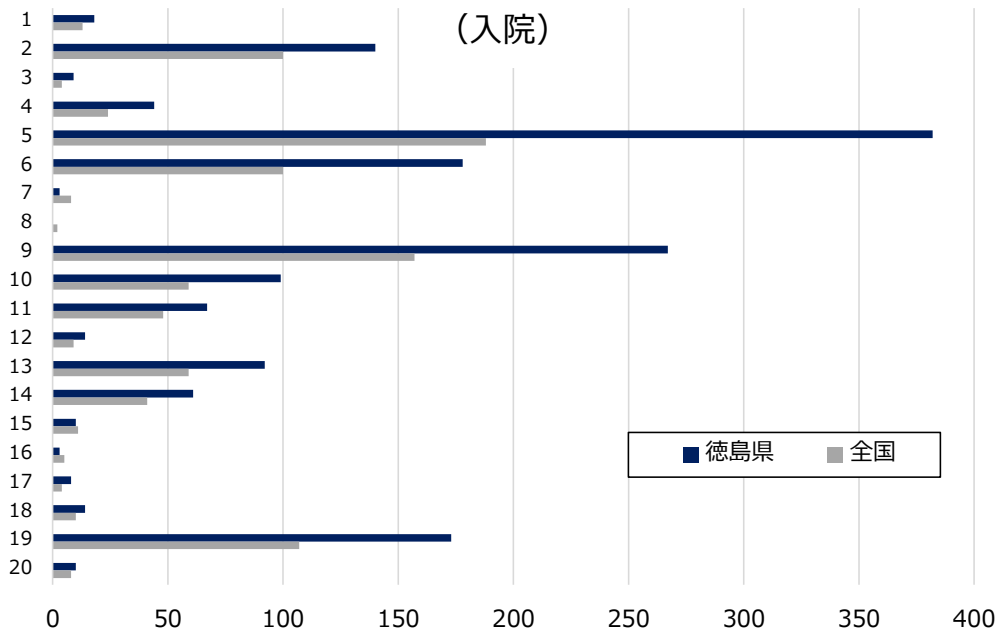


資料：厚生労働省「R2患者調査」

受療率（人口10万対）を疾病分類別にみると、入院では、高い順に「5 精神及び行動の障害」382（全国比2.03倍）、「9 循環器系の疾患」267（同1.70倍）、「6 神経系の疾患」178（同1.78倍）となっています。

外来では、「11 消化器系の疾患」1,186（全国比1.18倍）、「9 循環器系の疾患」951（同1.46倍）、「20 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」806（同1.02倍）となっています。

● 疾病分類別にみた受療率（人口10万対）



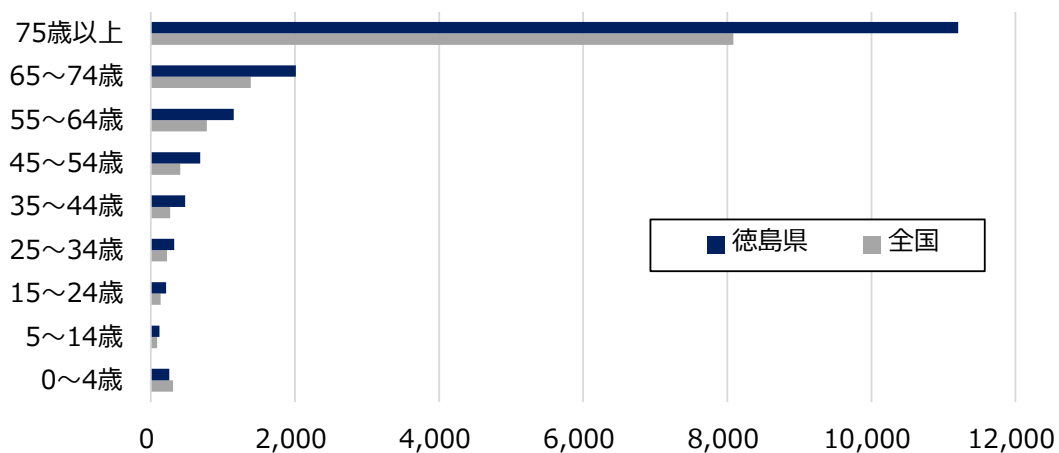
- | | |
|------------------------|------------------------------------|
| 1 感染症及び寄生虫症 | 11 消化器系の疾患 |
| 2 新生物 | 12 皮膚及び皮下組織の疾患 |
| 3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | 13 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| 4 内分泌、栄養及び代謝疾患 | 14 腎尿路生殖器系の疾患 |
| 5 精神及び行動の障害 | 15 妊娠、分娩及び産じよく |
| 6 神経系の疾患 | 16 周産期に発生した病態 |
| 7 眼及び付属器の疾患 | 17 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| 8 耳及び乳様突起の疾患 | 18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| 9 循環器系の疾患 | 19 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| 10 呼吸器系の疾患 | 20 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |

資料：厚生労働省「R2患者調査」

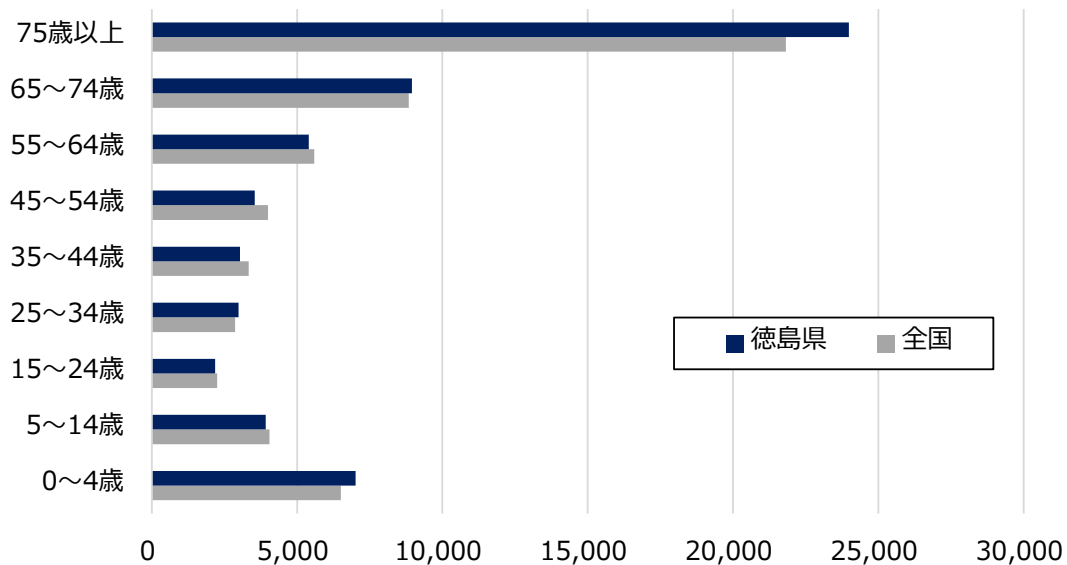
年齢階級別に受療率をみると、まず、入院患者については、0～4歳以外の年齢層において全国平均の受療率を上回っています。

● 年齢階級別受療率（人口10万対）

(入院)



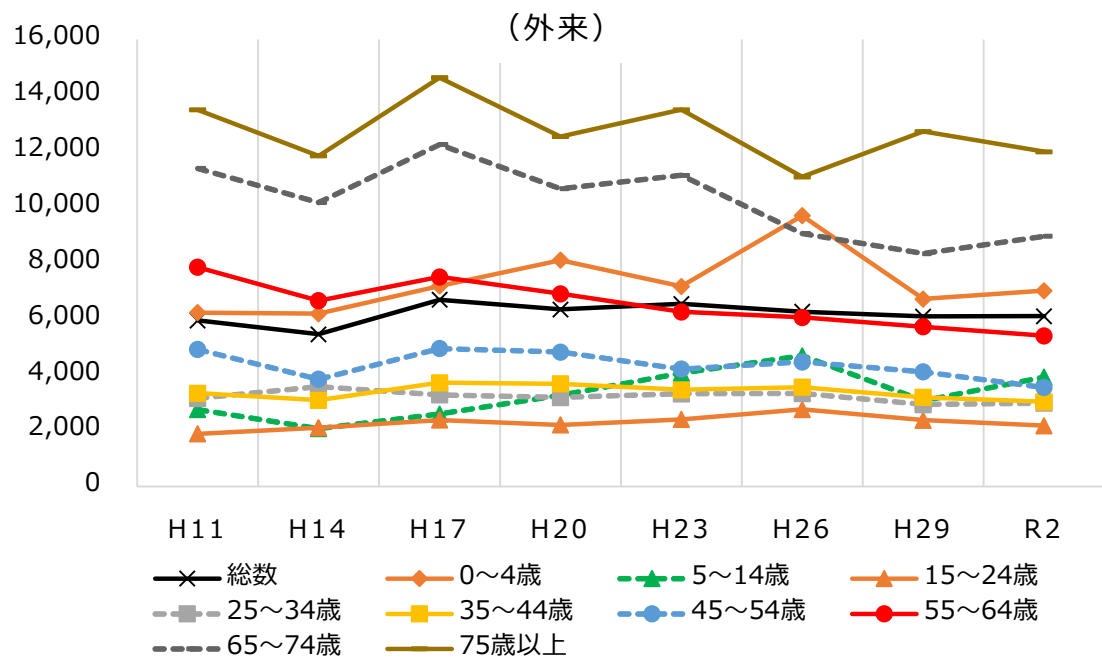
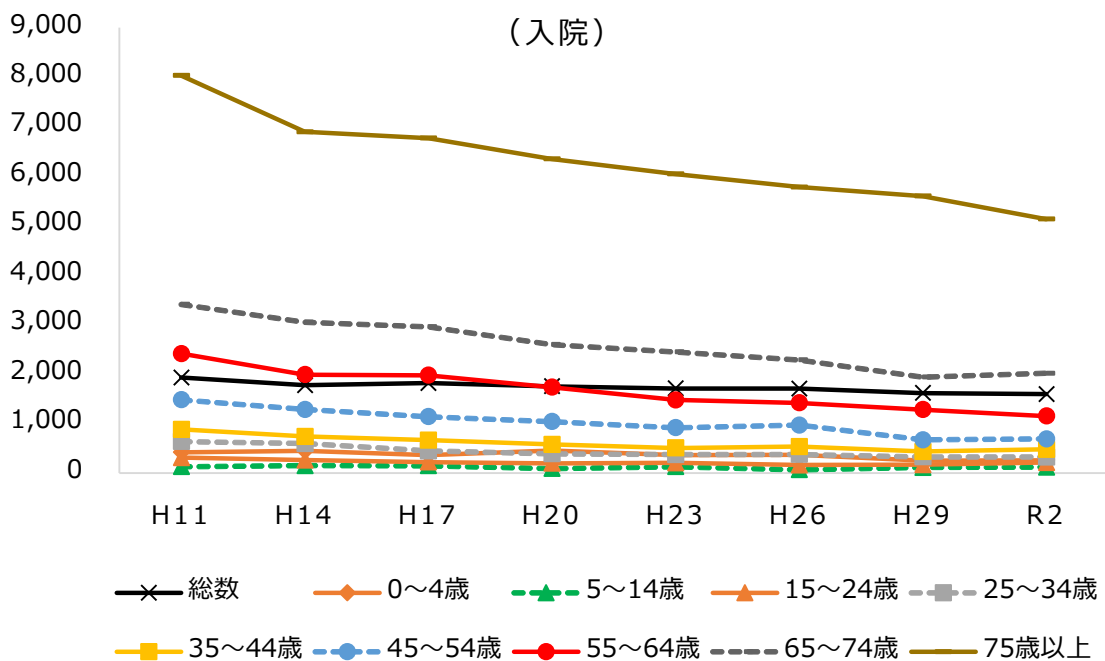
(外来)



資料：厚生労働省「R2患者調査」

また、年齢階級別に受療率の年次推移をみると、入院、外来ともに75歳以上が最も高くなっていますが、低下傾向にあります。

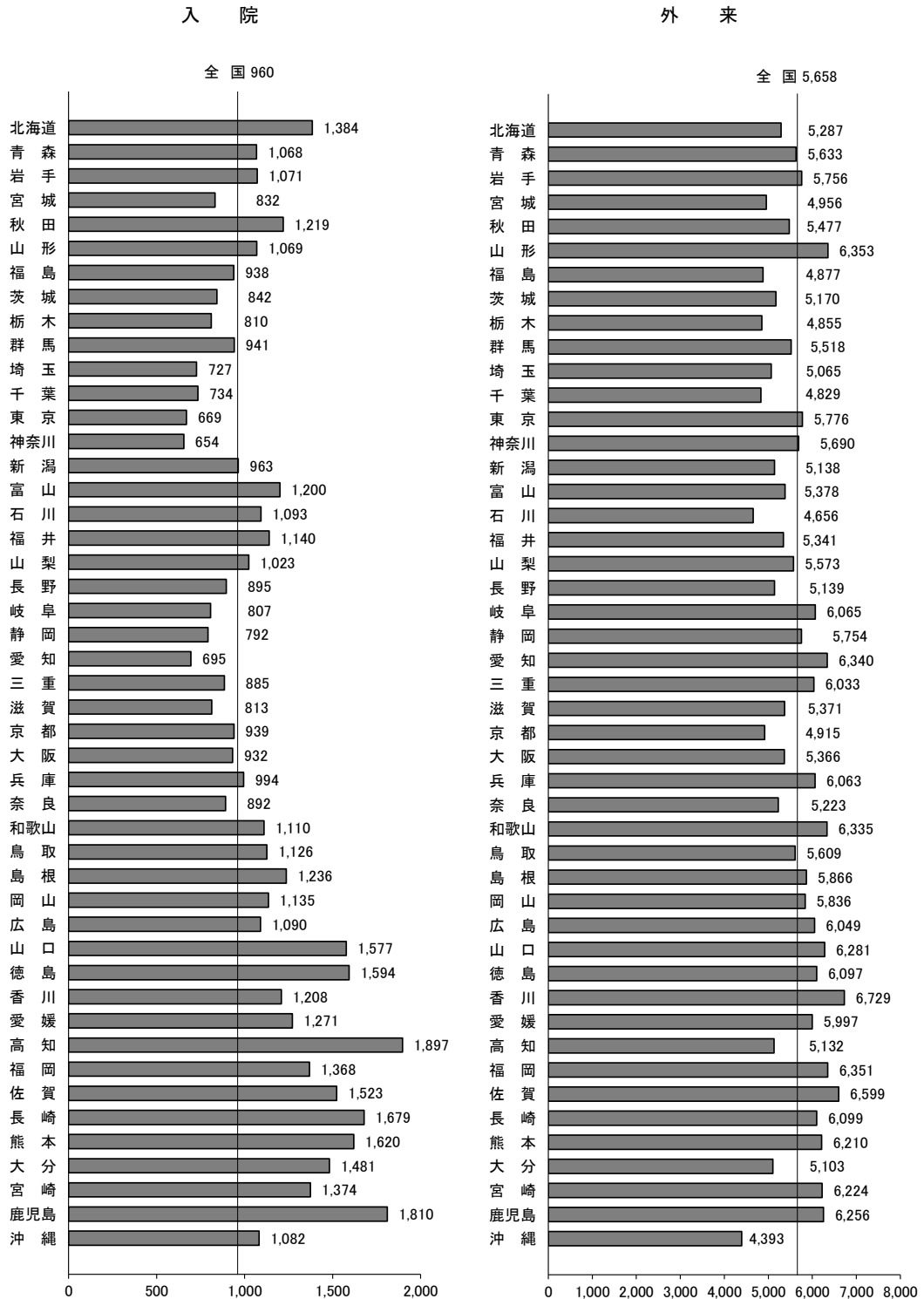
●年齢階級別にみた受療率（人口10万対）の年次推移



資料：厚生労働省「R2患者調査」

都道府県（患者住所地）別にみると、入院では高知が1,897と最も高く、神奈川が654と最も低くなっており、本県は全国5位となっています。また、外来では香川が6,729と最も高く、また、沖縄が4,393と最も低くなっており、本県は全国12位となっています。

● 都道府県（患者住所地）別にみた受療率（人口10万対）



資料：厚生労働省「R2患者調査」

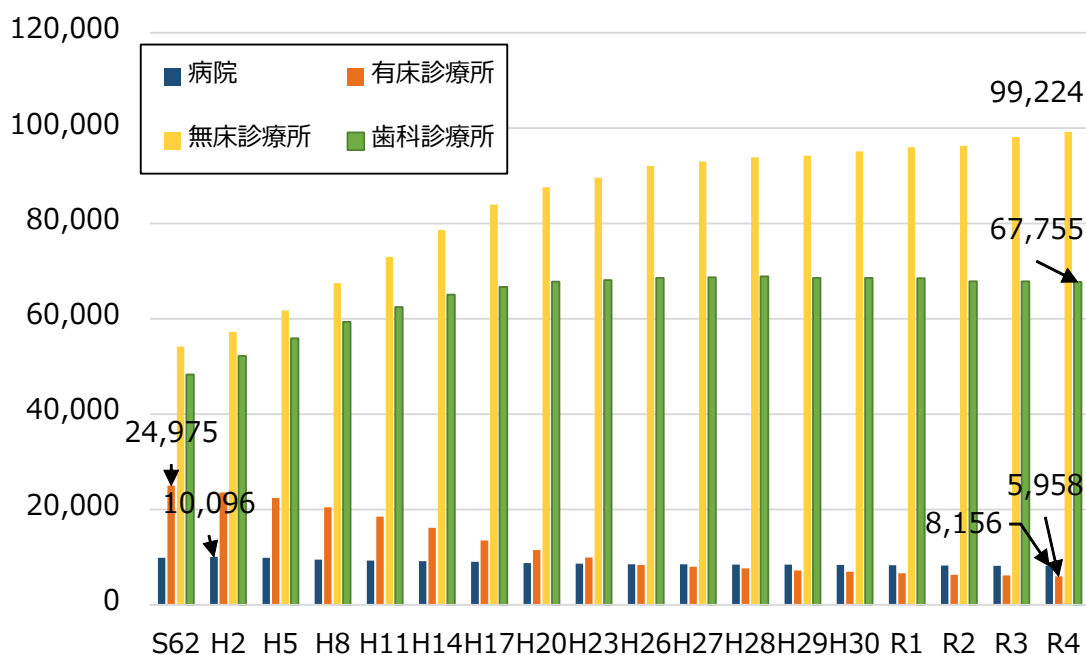
第3 保健医療施設の状況

1 病院、診療所数の年次推移

令和4年10月1日現在における全国の医療施設は181,093施設で、前年に比べ697施設増加しています。病院は8,156施設で、前年に比べ49施設減少しており、一般診療所は105,182施設で890施設の増加、歯科診療所は67,755施設で144施設の減少となっています。

また、病院数は平成2年の10,096施設をピークに減少しており、一般診療所については、有床診療所の減少が続いている反面、無床診療所は増加傾向が続いています。

● 全国の医療施設の年次推移

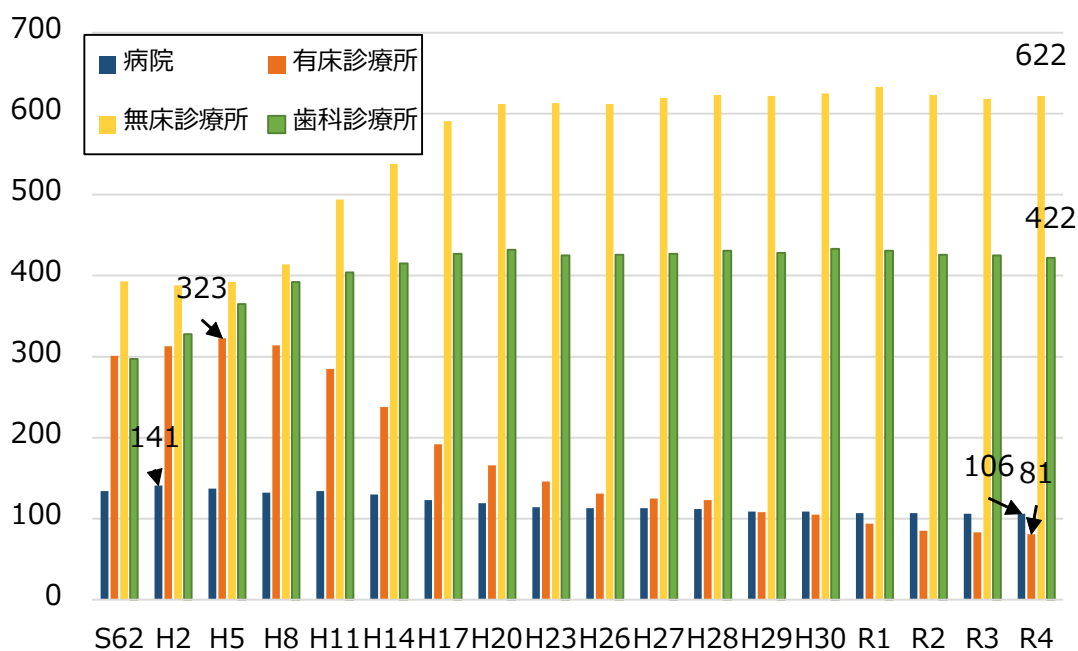


資料：厚生労働省「R4医療施設調査」

本県の病院、診療所数を年次別にみると、病院数は、平成2年の141施設をピークに減少しており、令和4年には106施設となっています。

また、一般診療所のうち、有床診療所についても平成5年の323施設をピークに減少しており、令和4年は81施設となっています。また、無床診療所は令和元年、歯科診療所は平成30年をピークにわずかですが減少しています。

●徳島県の医療施設の年次推移



資料：厚生労働省「R4医療施設調査」

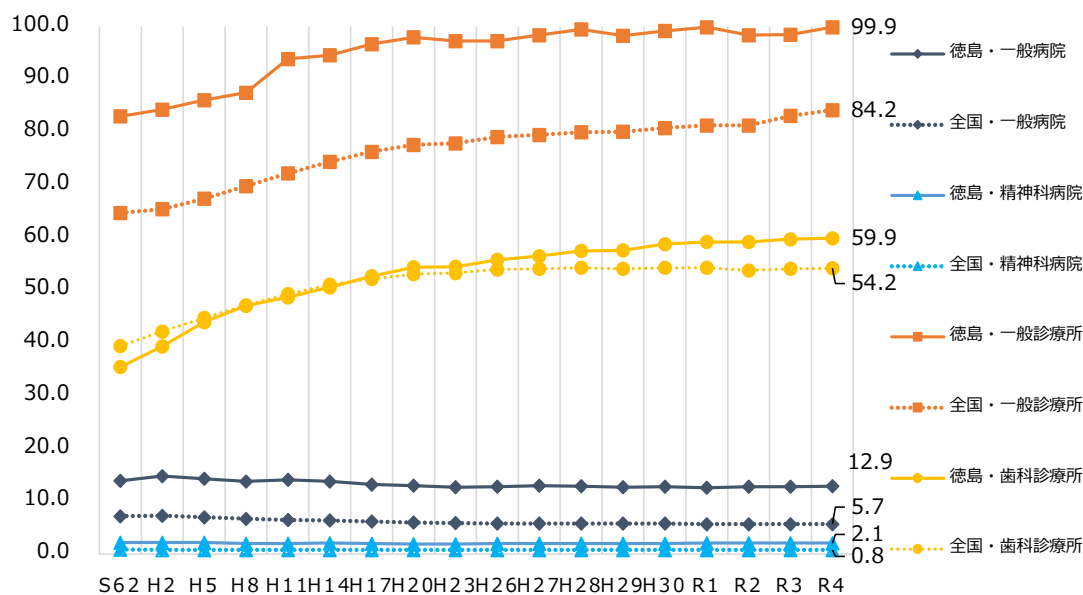
本県は、病院、診療所ともその施設数も病床数も全国的に比較すると上位に位置しています。

病院のうち一般病院については、令和4年10月現在、91施設で、人口10万人当たり12.9と全国平均の5.7を大きく上回り、全国2位（1位 高知16.0、3位 鹿児島12.3）となっています。

一般診療所総数は、703施設で人口10万人当たり99.9と全国平均の84.2を上回り、全国6位（1位 和歌山114.1、2位 島根107.4、3位 東京104.6）となっています。

また、歯科診療所は、422施設で人口10万人当たり59.9と全国平均の54.2を上回り、全国4位（1位 東京76.2、2位 大阪62.3、3位 福岡60.1）となっています。

● 医療施設数の年次推移（人口10万対）



資料：厚生労働省「R4医療施設調査」

2 病床数の年次推移

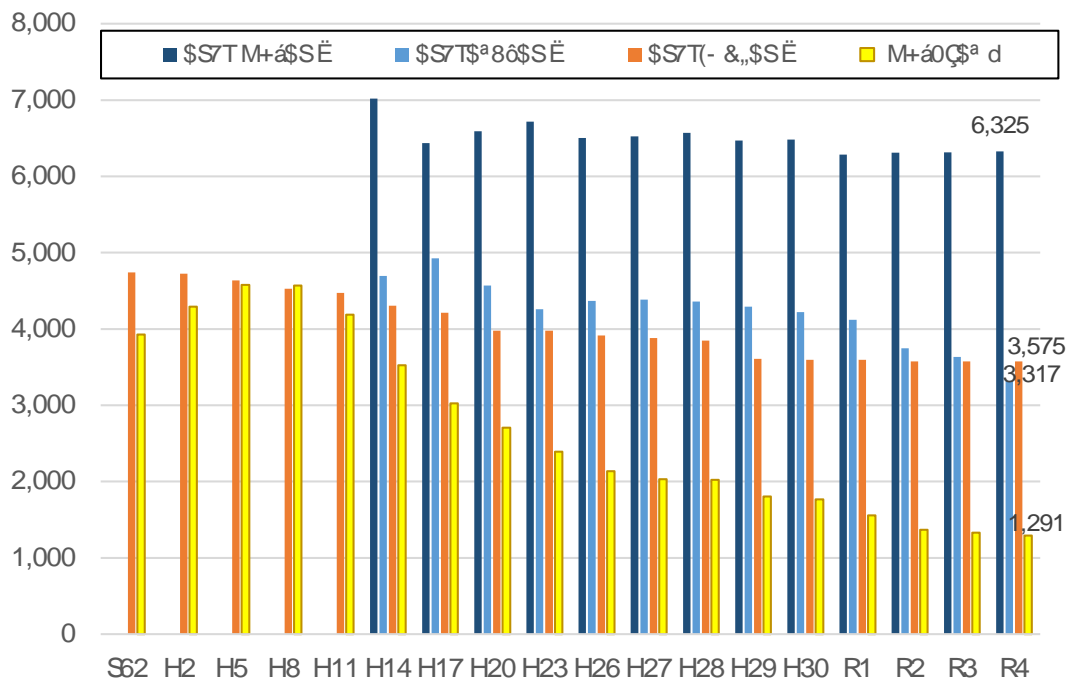
令和4年10月現在、全国の人口10万対病床数をみると、病院の総病床は1,194.9床で、病床の種類別では、精神病床257.6床、療養病床223.0床、一般病床709.6床、一般診療所64.4床となっています。

これに対して、本県の病院の病床数は、総数13,277床で人口10万人当たり1,885.9床と全国平均を大きく上回っており、その他の病床においても同様に全国平均を上回っています。

● 都道府県別にみた人口10万対病床数

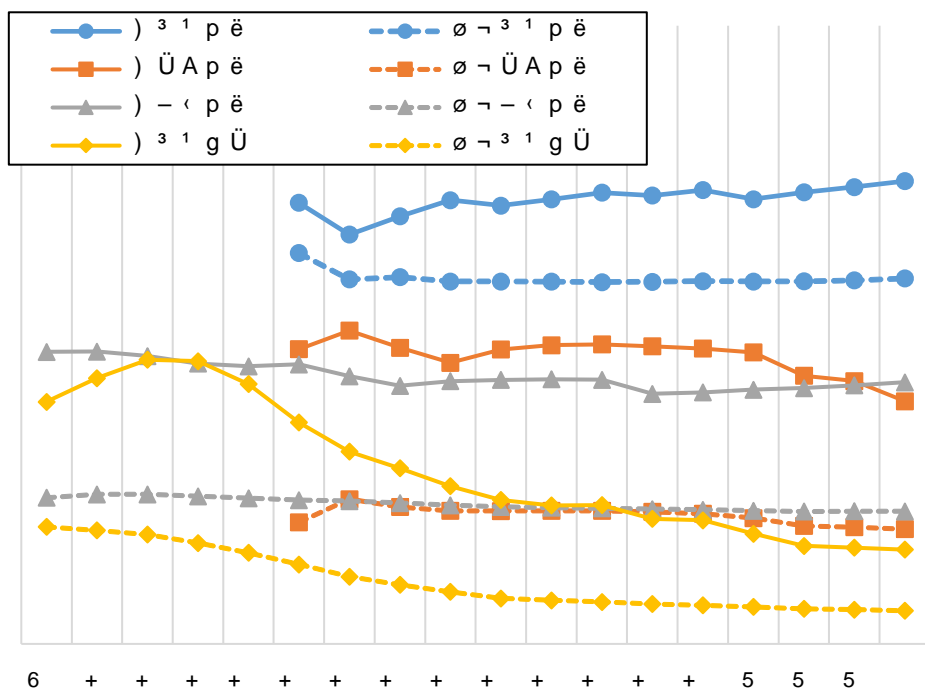
		徳島県		全国	人口10万対 都道府県順位
		病床数	人口10万対	人口10万対	
病院	総数	13,277	1,885.9	1,194.9	4
	精神病床	3,575	507.8	257.6	6
	感染症病床	23	3.3	1.5	6
	結核病床	37	5.3	3.1	10
	療養病床	3,317	471.2	223.0	3
	一般病床	6,325	898.4	709.6	10
一般診療所		1,291	183.4	64.4	7

t p ë / - « f ÓN



ñ @ Đ Ç Ì î DN5 « b Ü ± ù * O

t p ë / - « f ÓNB⁻ Ì C



ñ @ Đ Ç Ì î DN5 « b Ü ± ù * O

~ 4 « - ¼ * Nb Ü ç % - ^ 3 ÖQ] + J ç EO ± · K N - N - p ë Ü A ' p ë « Q
 ...? CQNÜApëO: 2 N ^ 3 1 p ë O * - Ä ' * c ^ 3 1 p ë : 2 Ü Ap ë . 4
 « 0 - > QUW

